

光都周辺の野生動物観察

光都周辺に生息する野生動物をトレイル

カメラで撮影し種類を調べて比較する。

第2学年 岸本結月 原田陽南乃（兵庫県立大学附属高等学校）

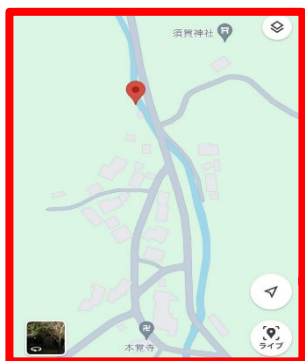
このテーマに至ったきっかけと目的

トレイルカメラの入手によって光都内の野生動物の観察が可能になった。



光都内の野生動物の種類を調べたい。

トレイルカメラの設置場所



光都の附属高校から山を下って行った集落の北側図の上側が北で小川の下流側になる。

山側(地図の左側)と道路側をつなぐ橋があり、その周辺を撮影するように山側の木にカメラを括りつけて撮影した。須賀神社付近は田んぼが多く、南側は住宅と畑が多い。また、夜間のトレイルカメラ付近の道路は車の通行が少ない。



撮影例



上が道路方面、
上左が田んぼ方面

上右が住宅・畑方面である。下が山側で、画面の下に小川が映っている。 昼間の同じ位置での写真。昼間はカラーで撮影できるが、夜間は白黒になる。



キツネ

食肉目イヌ科

体長約 60cm

本州・九州・四国・淡路島にホンドギツネが生息している。

耳が立っていて動きが比較的軽快に見える。

尾は長く、先が白くてふさふさしている。

聴覚が非常に発達しており、鳴き声で群れでのコミュニケーションをとることができる。

肉食性に近い雑食性。

穴を掘って餌を埋める。



ハクビシン



ネコ目ジャコウネコ科 体長 60cm 前後(尾の長さ 40cm)

鼻から額に向かって白い線がのびている。

尾が長く体の長さと同様。

夜行性で木登りが得意で、バランス感覚に長けている。

雑食性で果物や野菜等の農作物に被害を与える。小動物、昆虫、鳥類やその卵を食べ、好物は果物である。南方系の動物。

タヌキ



イヌ科タヌキ属

全長 70~80cm

本州以南に生息するホンダタヌキは日本固有種。

前足から肩にかけての黒い帯と短いしっぽが特徴。

耳はやや丸く目の周りに黒いマスクがある。

夜行性で人家周辺まで餌を探しに来る

自分では穴を掘らず、アナグマの古巣や樹洞などを巣として利用する。
雑食性で果実や昆虫、それ以外には生ゴミも食べる

アナグマイタ



チ科アナグマ属 全長 44~68cm
日本の本州、四国、九州、伊豆島に生息する。
ずんぐりとした体型。
耳が小さくて丸く、耳の先が白く、目の周りが黒い。
内部に部屋がいくつもある大規模な巣を掘って、越冬や子育てをする。雑食。



11月下旬から4月中旬まで冬眠するが 地域によっては冬眠しないこともある。



アライグマ

食肉目アライグマ科アライグマ属

体長 70~90cm



しっぽが縞模様、足が白っぽい。
北アメリカ原産地の野生動物だが、ペットとして日本に輸入された後、天敵がおらず、自然繁殖し増加した。特定外来生物雑食木登りが得意であらゆるところから侵入する一夫多妻、休眠により越冬

イタチ



イタチ科イタチ属 体長 30~40cm
胴体が細長く、小さい穴や隙間を通り抜けれるような骨格。尾が長め。
肉類を好む雑食で、1日に体重の40%の重量のエサを食べる。
性格は気性が荒く攻撃的。

<https://tanukiwalker.blog.jp/archives/tanukinosippo.html>

シカ

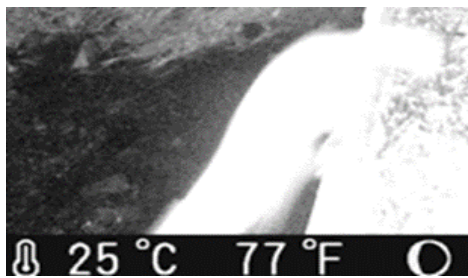
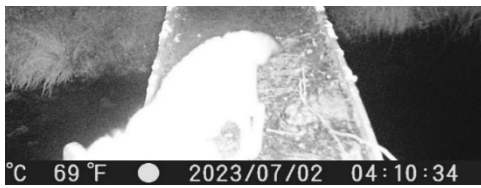
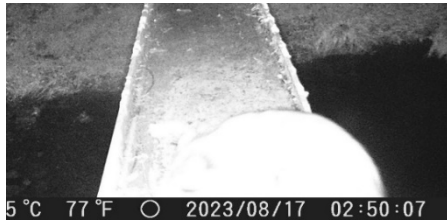


鯨偶蹄目シカ科
体長 130~180cm
オスは角を持っていて毎年 生え変わる。
一度に最大で9匹出てきた。
食性は草食で地方によって好む食物に差がある。
跳躍力が優れている。



写真から判別が出来なかった動物

光って、色の濃淡や体型が分からない。しっぽだけなど体の一部しか映っていない。遠くにいて、小さくて見えない。



結果

動物名	出現頭数
タヌキ	4
シカ	133
ハクビシン	12
アナグマ	8
キツネ	11
イタチ	6
アライグマ	4

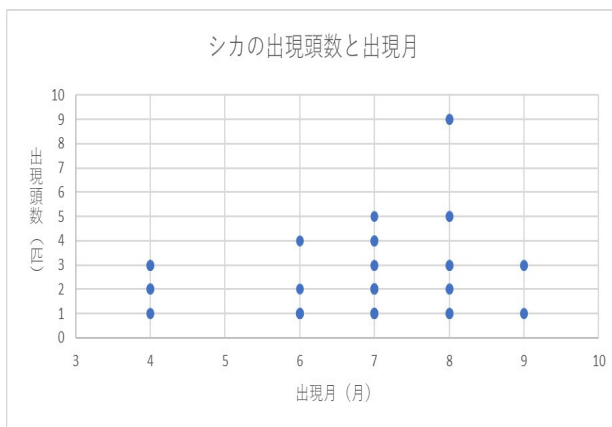
今回の観察で見られたのは7種。

シカは一度出てくる頭数も多かった。一度に5匹以上出てくることも多く、シカ同士でけんかのような取っ組み合いをしていることもあった。

アライグマは一度だけ3匹同時に出てきた。体長が小さいものも混ざっていて家族のようだった。

動画の撮影が開始された直後に山側に引き返す動物が多かった。山側から道路側に渡った動物は、写真では右側にあたる、住宅・畑方面に向かうことが多かった。

考察 シカ



7月後半から8月前半にかけて子鹿を呼ぶときのメスの鳴き声をした



子育てをされていて、7月、8月の出現頭数が増えた

考察

動画の撮影が開始された直後に山側に引き返す動物が多かった。

→トレイルカメラが照射した光(赤外線等)を、敏感な動物が察知して、山側に戻ってしまったのではないか。

山側から道路側に渡った動物は住宅・畑方面に向かうことが多かった。

→雑食性なので、畑に実った作物を食べようとしていたり住宅地の庭に侵入するためではないか。

また、田んぼは、ネットや柵が頑丈に張っており、侵入することが難しいからではないか。

今回撮影された動物は日本全国で害獣として、捕獲方法や被害、その対策が多くネットに載っていた。

引用

キツネってどんな動物？：

<https://er-animal.jp/pepy/29582#i>

イタチの特徴について：

<https://kujoservice.com/%E3%82%A4%E3%82%BF%E3%83%81%E3%81%AE%E7%89%B9%E5%BE%B4%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6/>

一般財団法人奈良の鹿愛護会 行動・生態：<https://naradeer.com/learning/ecology.html>

シカの特徴：<https://www.kwn.ne.jp/knowledge/shika.html>

屋根裏の害獣ハクビシンの被害・対策・駆除：

https://www.city.moka.lg.jp/kakuka/nosei/gyomu/kankyo_pet/gaiju_gaichu/1/2370.html

タヌキの生態と対策について 長崎県農林部：

<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2014/01/1389920991.pdf>

アナグマの特徴と対策について：<https://inohoi.com/blogs/knowledge/post-1643>

アナグマ、タヌキ、ハクビシンの見分け方：<https://www.sharing-tech.co.jp/araiguma-tanuki-hakubishi>